

高速道路で 1 年過ごして

西日本高速道路株式会社
九州支社 久留米管理事務所

丹 藤 雅 人

私は 2011 年 3 月に工学研究科電気電子情報工学専攻を修了しました。また、パワーシステム領域という電力・パワーデバイスに関わる研究室の中で、私の研究テーマは「車輪型倒立振子のデジタル制御における安定性の評価および実験機による検証」という制御工学のものでした。私が制御系の研究を行うと決めたのは、電気のみならず、機械や流体など数式を用いるものに広く適用できるという考えからです。モデル化して数式で表現することで制御や解析を行うという制御工学の考えは、電気回路という手の平サイズのものから、ロケット・船舶といった巨大なものにまで適用されています。就職先を決める時にも、このように選択肢が広いものを選びたいという思いがあり、大手メーカーやインフラ、特に電力会社を選択する友人が多い中で、私は西日本高速道路株式会社(以下、NEXCO 西日本)に入社しました。その決め手は、就職活動の中で、設計や開発などの「考える」業務から、既設設備の維持や新設する設備の工事などの現場で「動く」業務まで幅広い業務内容であることを知ったからです。また携わる分野についても、管理する設備が電気・機械・通信・建築と 4 分野あり、自分が修得できる知識としても幅広くなるという思いもありました。

NEXCO 西日本では、採用区分として施設・土木・事務の 3 つがあり、私は施設の中でも電気系として採用されました。施設の業務というのは前述の通り、4 分野の設備を総合的に管理していくことです。この「総合的に」というのがミソであり、入社前に分かったつもりでいましたが、話に聞くと実際やるのとでは違うことをこの 1 年で痛感しています。トンネルの照明一つとっても、設置する場所の制約や明るさの制御、そのための計測機器や信号線と、明確に分野を分けることはできません。ほとんどの設備がこのように複合的なものと言えます。また、資料を見て機器を理解できたと思っても、故障した場合の対応などは思いつかず、先輩方に聞かなければ解決できないことばかりです。入社してまず痛感したことは考えの甘さでした。

もう一つ、社会人になって足りないと感じたことは「スピード感」です。研究では、自分で調べ、考え、

実行することで問題解決を行っていました。しかし、業務でそんなことをやっていると現場にはとても間に合わず、状況は悪くなる一方です。社会人として当然のことですが、私にはとても難しく、何度も失敗しています。早く一人前になるためにも、考えながら現場を動けるようになることを目指しています。

こんな失敗ばかりの私ですが、この 1 年で大きく二つの業務をしています。一つは、「動く」業務として現場設備の点検・測定の手伝いがあります。勉強という目的も含めて、現場に行って機器を自分の目で見ながら点検・測定に立ち会うことで、どこにどんな設備があり、その役割は何か、正常な動作がどういうものかが確認できます。そして、事務所に戻ってから資料で再確認するということを繰り返すことで設備を理解しています。もう一つ、大きな業務を任せられました。設備を更新するための工事を発注するという「考える」業務です。工事に必要な金額の見積り、発注する機器の仕様確認、業者との工事手順の打合せなど、経験したことのない内容ばかりでした。やはり、上手いかないことの方が多のですが、上司や先輩方から手取り足取り教わりながら、執筆現在はこの工事を行っている最中です。自分が深く関わったことで、その現場には特に思い入れを持っています。これを踏まえると、管理路線全てに自分が携わった設備を設置することが私の大きな目標といえるのではないのでしょうか。これは西日本(関西圏～沖縄まで)という広範囲で事業を行っている、NEXCO 西日本に入社したからこそ持てる目標と言えます。

2 年目に向けての反省文になってしまいましたが、自分の考え方や先入観を見直せたことで少しずつですが、自分の視野が広がったと思います。それは仕事だけでなく、プライベートな面にも表れています。例えば休日の過ごし方はインドア派だった私が車を買って、九州のドライブ旅行を楽しんでいます。まだまだ一人前には遠いですが、これからも仕事に遊びにと苦楽を重ねて成長して行きたいと思っています。

(電気電子情報 平成 23 年前期)